

取組実績の概要（2 ページ以内）

1. AP 事業における取組概要

本学の AP 事業では、「学修成果」に関する可視化されたデータ等（エビデンス）で PDCA サイクルを絶えず回し、授業改善・学修改善・教育課程の改善等を継続的に実現して、教育の「質向上」と「質保証」を図ることを目指している。具体的には、PDCA サイクルを回すためのシステム化を中心に以下の 4 つの取組を推進している。

- ① 「学修成果の可視化」のためのシステムの構築
「学修成果 (LO1~LO5)」別の成績入力、各種学生アンケートでの学生による到達度・成長度の自己評価入力、入力データの集計と定型フォーマットによる出力等を全て Web シラバス・システム上で行う仕組の構築。
- ② 情報のフィードバック・共有のためのシステムの構築
学生に各種情報をフィードバックするための「学生情報ファイル・システム (SIF)」, 及び教職員間で情報を共有するための「グループウェア・システム」の構築。
- ③ 第三者評価の PDCA サイクルへの反映
富山短期大学外部評価委員会、「第三者アンケート」等で得られた第三者評価を DP・CP の点検・見直しへ反映。
- ④ IR の推進と FD/SD を通じた教職協働による教育改善の推進
Web シラバス・システム上で実施された各種学生アンケート結果等から得られたパネルデータを活用して、授業改善 IR・学修支援 IR を推進し授業改善・学修改善・教育課程の改善等につなげる。

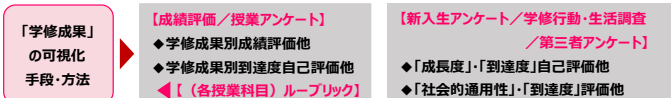
2. 「三つの方針 (DP・CP・AP)」の見直しと「学修成果」の明確化

平成 28 年度に、「三つの方針 (DP・CP・AP)」の整合的・体系的な見直しを行った。新たな DP (ディプロマ・ポリシー) では、本学が育成する人材が身に付けるべき資質・能力として次の「5 つの力」を規定した。

- ① 実践の土台となる「専門的知識・技能」
- ② 実践を支える「思考力・判断力・表現力」
- ③ 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」
- ④ 他者を尊重し多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」
- ⑤ 健全で豊かな「人間性」である。

この「5 つの力」に対応して、「学力の三要素」を考慮した「5 つの基準」(LO1) 知識・理解, (LO2) 技能, (LO3) 思考力・判断力・表現力, (LO4) 関心・意欲・態度, (LO5) 人間性・社会性を設定し、この「5 つの基準」別に各学科・各授業科目で育成する具体的な資質・能力(「学修成果」)を明示している。さらに、「学修成果」の全学的な共通のベンチマークとして、「5 つの基準」に対応させた「17 の具体的な資質・能力」(平成 28 年度までは 21) を規定して、「学修成果」の到達度・成長度を把握している。

「5つの力」(全学DP)・「学修成果」の「5つの基準」・「17の具体的な資質・能力」			
(DP) 育成する人材像 身に付けるべき「5つの力」	「学修成果」の 「5つの基準」	身に付けるべき 「17の具体的な資質・能力」	「21世紀 型能力」 (NIER)
1 実践の土台となる「専門的知識・技能」	(LO1) 知識・理解	① 幅広い教養・一般常識 ② 専門分野の基礎的な知識	【基礎力】 (基礎的 リテラシー)
	(LO2) 技能	③ 専門分野での実践に必要な技術・技能 ④ PCや情報機器を操作する力 ⑤ 分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力 ⑥ 分かりやすく文章にまとめる力	
2 実践を支える「思考力・判断力・表現力」	(LO3) 思考力・判断力・ 表現力	⑦ 問題点・課題を発見して、 論理的に問題・課題を解決できる力	【思考力】 (認知 スキル)
	(LO4) 関心・意欲・ 態度	⑧ 自分の適性や能力を把握する力 ⑨ 自学自習する力・習慣 ⑩ 自分で目標を設定し、計画的に行動する力 ⑪ ねばり強さ・持続力・集中力 ⑫ チャレンジ精神 ⑬ 自己効力感や自信・自己肯定感	
3 生涯学び続け成長するための 「主体的に学ぶ力」	(LO5) 人間性・社会性	⑭ 多様な価値観・考えを持つ人々の理解と尊重 ⑮ 社会的責任の自覚と高い倫理観 ⑯ 地域や社会に貢献する意識 ⑰ 協働して共通の目標の実現に貢献する力	【実践力】 (社会的 リテラシー)
	4 他者を尊重し多様な人々と共に 共通の目標の実現に 貢献できる「協働力」		
5 健全で豊かな「人間性」			



3. 「学修成果」の把握・可視化方法

「学修成果」の把握・可視化は次の方法によっている。

- ① 教員は、Web シラバスに記載した、「学修成果 (LO1～LO5) 別配点基準」と「ルーブリック」に従って、「学修成果 (LO1～LO5)」別に各授業科目の成績評価を行う。
- ② 学生は、学期末の「授業アンケート」において、当該授業での「学修成果」の到達度を、「5つの基準」ごとに自己評価する。
- ③ ①と②により、授業科目毎ならびに学科全体（教育課程）で、「学修成果 (LO1～LO5)」別の到達度を把握することが可能となり、レーダーチャート化している。
- ④ 学生は、1年次後期初・2年次初に行う「学修行動・生活調査」において、「17の具体的な資質・能力」の成長度に関する自己評価を行う。
- ⑤ 学生は、入学時の「新入生アンケート」及び卒業時の「学修行動・生活調査」において、「17の具体的な資質・能力」の到達度について、同年代の学生と比較した自己評価を行う。
- ⑥ ④と⑤により、学科全体（教育課程）で、「17の具体的な資質・能力」別、「5つの基準」別の成長度と到達度を把握することが可能となり、グラフ化している。

これらの教員による評価、学生アンケートにおける自己評価は、すべて Web シラバス・システム上で行われている。その結果、「授業アンケート」はすべての授業科目で実施され、学生の回答率も高い水準を確保できている。また、学生アンケート結果から得られるパネルデータを利用して各種 IR を推進している。

【必須指標の達成度】

	平成 26 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
1. 退学率 [% (退学者 (除籍者を含む) / 在籍者数)]	0.5	2.0	1.6
2. プレースメントテストの実施率 [% (テスト実施者/入学者数)]	26.9	100.0	100.0
3. 授業満足度アンケートを実施している 学生の割合 [% (実施学生数/在籍者数)]	44.0	95.0	90.9
4. 授業満足度アンケートにおける授業満足率 [%]	81.1	80.0	80.3
5. 学修行動調査の実施率 [% (実施学生数/在籍者数)]	44.0	100.0	90.9
6. 学修到達度調査の実施率 [% (実施学生数/在籍者数)]	44.0	100.0	90.9
7. 学生の授業外学修時間 [時間数 (1週間当たり (時間)]	約 8.0	20.0	12.4
8. 学生の主な就職先への調査 [実施の有無]	実施	実施	実施